令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0393000070		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム小本		
所在地	〒027-0421 岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野285		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	令和4年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1階が食堂・浴室・事務所、2階が居室の構造になっている。日中は1階で過し、夜は静かな2階の居室で就寝する。昼と夜の区別をつけることが出来る。地域のお祭りや家族との外出等外部との関りが難しくなっているため、季節を感じる行事や誕生会等の娯楽を提供している。利用者様より希望を募り『思い出の地ドライブ』に出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人は、沿岸地区を中心に県内で複数の地域密着型サービスのグループホームを中心に多様な福祉施設経営に携わっている。法人全体の理念に加え、昨年春に「笑顔と思いやりを大切にする」事業所の理念を、職員全員で作成し、利用者担当制のもと親のように接することを心掛けている。岩泉龍泉洞インターの近くに位置し、住宅に囲まれた閑静な場所であり、同一敷地内に小規模多機能センターが配置され、日々の利用者へのサービスに当たり緊密な連携を図っている。東日本大震災やその後の台風への対応を経験し、近隣の役場支所との連携をはじめ、隣接の地域企業からの協力や職員が住む地域との日頃からの交流などを通じて、災害訓練等をこまめに実施している。管理者は、利用者ごとに担当職員を定め食事時間の個々の会話を大切にするなど、職員・利用者間の関係性に配慮している。地域医療機関との連携が進められており、今後の更なるサービスの充実が期待される。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務に追われ『理念＝理想』となっている。	法人全体の理念に加え、昨年春に「笑顔と思いやりを大切にする」事業所の理念を、職員全員で作成し、電気スイッチの上部に貼る等、常に意識できるよう工夫している。管理者は、利用者・職員一緒に楽しく生活し、利用者担当制のもと親のように接することを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過中のため日常的な交流は出来ない。事業所を開設し10年が経過し地域の一員として認識されている。	「小本駅前自治会」に加入している。男性利用者は近隣の床屋に通い、女性利用者は訪問美容院を活用し、パーマも行っている。当地域内・近隣地域に居住する職員もおり、地区会長や消防団の職員もいるなど、コロナ禍前は運動会等の行事参加や認知症講師の引き受けなど、地域との交流もあったので、今後の復活が期待できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2と同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催は出来ていない。最近の開催時は2名が欠席、参加率良好。事業所の運営の件やな難事ケースの解決法について相談することもある。	コロナ禍の中、書面会議も行っているが、状況に応じ直接対面の会議を11月に開催している。同法人隣接設置の小規模多機能センターと共同開催し、町小本支所が近く、支所職員及び民生委員・地域自治会・家族代表等参加のもと、利用状況や事故報告等を行い、委員からは職員体制状況や予防接種等多様な意見提言を得ている。会議には、職員が記録係として参加している。	同じ敷地内に小規模多機能センター、メゾン小本、そしてグループホームが併設されており、地域の消防団との交流に加えて、可能な範囲でも今後はオブザーバー参加等消防署からのアドバイスを得る機会として、また事業所の情報提供・共有の機会として、運営委員会を活用することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケア会議や虐待防止委員会に出席している。運営推進委員として町職員が参加している。	ケア会議には年1回参加し、健康体操の普及や問題ケースの検討・共有に加え、会議終了後の会話内容も効果的に活用している。管理者が役場や包括支援センターを介護保険手続きや衛生用品の受領等、管理者が直接赴き交流を図っている。	

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について施設内研修を実施し職員は理解している。身体拘束は行われていないが、身体拘束に繋がる恐れのある行為についても話し合っている。	身体拘束にかかる指針を有し、契約書には身体拘束を行わない旨明記している。研修は年2回、職員が輪番制で行い、身体拘束適正化委員会は毎月ミーティング時に開催し、夜勤明け等シフトで参加できないとき以外は職員全員出席している。ベッド柵やセンサー設置はなく、耳の遠い利用者への話しかけ時等はスピーチロックに留意している。防犯上玄関施錠は、午後8時から朝6時頃まで行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待は行われていない。定期的に勉強会開催し虐待に繋がりそうな些細な出来事の有無や対応先についても話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度は利用あり。成年後見制度申請予定の利用者様がいらっしゃいます、制度や流れについて一緒に学んでいく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に説明を行う。わかりやすい事例について付け加えて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は職員・管理者で相談し解決している。運営推進会議で報告することも可能。	家族アンケートの実施や意見箱等の設置はしておらず家族からの要望はないが、職員との関係性から希望を感知しており、東京の家族とのリモート面会を実現している。介護計画の変更時の郵送対応や訪問診療の普及など家族と事業所が接する機会が減っているが、事業所側からの衣類交換相談や介護計画の変更説明等、家族意見聴取機会の増加を試みる姿勢である。	

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	10に同じ	管理者は、毎月の職員会議や日々のミーティング時に職員の意見・提案を聞くように心がけており、休日等の相談等直接受けている。改善点は、車やエアコンの入れ替えのほか、避難経路としての2階非常階段から道路への誘導口整備など、管理者・職員間で相談しながら進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得助成金制度があり活用している。元旦勤務の職員は特別手当を頂いた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を月1回開催している。外部で開催される研修や『実践者研修』など数日かかる研修も就労中に参加できるように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会（全国・沿岸ブロック）に加入しネットワーク作りや勉強会の参加する。町内のグループホームと情報提供や相談等も行える関係が作られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人から聞き取るようにしているが、聞き出すことは難しい。かかわりの中で好物や昔話等の会話の中から要望等を聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申請の際に困り事を聞き取っていいる、。面会や電話連絡の際に出た要望は所内で検討している。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネからの情報を参考に支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業の手伝いは率先してやってくれる。親戚や近所のおばさんのように気を遣わず相談できる関係になっていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過のため面会や外出も思うように出来ない。沢山の写真を載せた広報を送付している。電話連絡の際は子機を使いご本人と話を出来る機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢で体力低下があり馴染みの場所へ行くことが難しい場合もある。ご本人から行きたい所・実家・思い出の地を聞き取りドライブの行先にしている。	入居前の初期調査で、本人・家族から生活歴を聞きとりをしている。本人が行きたい場所等を言うことは無いが、ドライブ・買物・実家周辺へのふるさと訪問を行っている。美容院・理容所が馴染みの場所となっている。携帯を持っている利用者が2人おり、自ら家族と電話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間は可能な限り一緒に取っていただく様にしている。誘い合って散歩や歌番組を観賞できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族本人より相談がある場合は対応する。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当の職員を決め、暮らしに不便が無いように努めている。担当の職員は、その都度意向を確認に努める。	利用者ごとに職員担当を決めており、お茶の時間、食事の時間に話を聞いている。ひっつみ、ひきうす、豆腐つくりなど、昔の得意話を聞き出している。入浴時の歌っている時や電話の活用等工夫しながら、利用者の顔の表情をきちんと見て話したいことを聞き出すことを大切にしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ケアマネ・家族より聞き取っている。自宅を訪問しじかに感じ取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りで変化を報告し、個人記録に記載。変化や不穏については申し送りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度カンファレンス実施し介護計画作成する。意見やアイデアを実行してみている。	毎月利用者全員について相談を行い、毎月3人分、各3ヶ月ごとに見直しを行っている。日々の申し送りには管理者が毎回出ており、早番と日勤か入り申し送り時3～4人、ミーティング時には7人位が参加している。大きな利用者の変化があった際には、職員同士伝達し合い、職員相互に確認し介護計画に記入している。家族には郵送時に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日誌に記載し職員間で共有している。成功した対応方法は実践に移している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	便秘症の対策（運動）・水虫対策（足浴）の実施。親族のお悔やみやお別れの付き添いを実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店や床屋の利用。地元ならではな風光明媚な場所へのドライブ実施。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が有る状態で入所される事が殆ど。専門医への付き添いやADL低下した方の場合は同行し適切な治療が出来るように支援している。	令和2年から地元医療機関による訪問診療が6人、3人が月1回のかかりつけ医（精神科・外科・循環器科）受診となっている。送迎は職員が同行するほか、家族が同行する場合には利用者の大きな変化等を家族への口頭又はメモ・手紙で医師に伝えている。訪問診療は、医師・看護師・薬剤師が同行し、職員が医療機関に薬を取りに行く。歯科の訪問治療は月2回実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在時の様子が把握できるように記録をしたほかに、口頭で伝える。訪問診療の際は看護師が同席する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の情報交換は出来ている。退院前に看護師より現在の状況等を聞いて支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の話はタイミングが難しい。重度化した場合に施設で出来る事・出来ない事は医療機関や家族には伝えてある。	看取り・重度化の指針に沿って、入居時に説明しているが、看取り可能な体制はなく、看取りの事例はない。看取りの課題は、当事業所への医療機関医師の訪問体制が維持できないことから、事業所としての姿勢をどうするか、看護師から随時指導を受けているものの、職員へのケア等段階的な研修が必要であることである。たん吸引等対応が難しい状況となりうるときは、病院移送や特養への申請手続きを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っているが、書面での研修等が殆ど。最近の救急搬送で、不備はなかった。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練実施。避難の際の持ち物は1か所に準備してある。	町のハザードマップ上では、津波・大雨等による浸水区域とされており、役場の支所が避難所となっている。通報訓練を含めて、火災訓練（夜間想定を含む）を年2回、水害訓練を年1回、隣接する企業との協力や消防署の立会を得るなど、地域との連携のもと行っている。車での避難もあるが、台風19号時には2階に垂直避難した。台風10号後に、職員4人が防災士の資格を取得している。備蓄は、水・パック米や生米・パック味噌等の食料品のほか、介護用品やポータブルトイレを準備している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分は出来ていると思うとの意見もあった。耳が遠い利用者が多く、声掛けが外に聞こえてしまう。人格の尊重について見直しが必要と感じる。	声掛けの仕方等介護の基本を理解した上で、利用者の役割を引き出せるよう人格尊重の見直しが必要と考えている。ミシンの使い方、パッチワーク、洗濯の仕方など利用者の経験特技を活かすほか、食事時の挨拶の順番制を行っている。比較的要介護度が低いため、職員と一対一の会話や手伝いの声掛け等、旺盛な自立意欲を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞き出すことは難しい。代替え案の提示・選択できるようにしている。（入浴拒否の方にいつが良いか選んでもらう）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人のペースを大切にしている（急がせない・早目の声掛け）。朝に起きられない方遅めの朝食提供、自分で最後まで召し上がれるように、利用者・職員ともゆっくり待っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師が来所、カット・パーマ・カラーの要望を叶えている。担当職員が季節に合った衣類等のいれかえしている。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい固さや調理法・行事食を工夫する。下膳やテーブル拭きを一緒に行う。外食が出来ないため、行事の際に仕出しや寿司を取りよせて楽しんだ。	行事食以外は、職員が三食作っており、緑色の食材使用に意識的に努めている。利用者と職員が一緒に食事をしている。利用者が食材購入に同行し、小遣いを使ったりしている。誕生会は、一人一人開催することを基本としており、職員と一緒にケーキ作りを行っている。自家用の収穫期には利用者が収穫作業を行い、もやしひげ取りや芋の芽とりの手伝い等携わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表に記録し水分量が分かるようにしている。献立ノートを利用し栄養や食材がバランスよく調理されているか確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと夜間の入れ歯消毒実施。必要に応じて歯科受診しケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は睡眠の妨げにならないように睡眠時は声掛けしない。日中は定期の誘導しご自身が出来るところは見守りしている。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレの自立を促しているが、介護用品を利用しつつ5人がトイレ利用で自立しており、4人に声掛けしている。全介助は1人である。トイレは1階、2階にあり、2階の居室から1階トイレの利用はない。病院から入居した利用者2人がリハパンから布パンに変更している。夜間睡眠時は、シーツ交換を覚悟して、起こさない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩やマッサージ・水分・ヨーグルト接種等工夫している。時には下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は特に決まっていない。『一番風呂』『ゆっくり入りたい』等の希望を叶えるようにしている。気乗りしない時は翌日に変更し入浴を楽しめるようにしている。	日曜日を定休日とし、遅番職員対応で週2回午後入浴を基本として必ず一人入浴としている。安全確保の観点から職員はゴムサンダル履きで対応している同性介助希望が1人、こだわる人以外は石鹸は同種、水虫保有者は毎日入浴、入浴を嫌う人には継続して入浴を勧めている。	

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔を心掛けている。季節ごとに合った寝具に入れ替えゆっくり就寝できるようにしている。一人寝の寂しい訴え擦る利用者様には寄り添う時間を多く持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師や職員間で情報を共有している。かかりつけ薬局の薬剤師に相談できる体制も出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出来ることを無理なく取り込める作業や活動を企画している（菜園作り・収穫物の下処理・話題にのぼった所の道案内）。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方や人込みへの外出はしていない。転機を見ながら近所の散歩や短時間の外気浴を行い季節を感じれるようにしている。	行事係が外出を企画し、2～3人単位での外出のほか、ベンチで日光浴をしている。暑い日の昼はジュースを出し、大雪以外の日は声掛けをして確認の上動いているが年々低下し散歩も数分程度となっている。訪問診療の際に家族が来た時個別に外出している。お彼岸やお盆の際の外出希望や外泊も無い状況である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では、預り金を管理し消耗品や散髪代金の支払いに充てている。高額なものはご家族の了解を頂いている。家族の了解のもとご本人が少額の管理することもある（洗濯ものに紛れることもあり、要注意です）。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	広報に近況を伝える手紙を添えて送付している。ホームからの電話の取次ぎや携帯電話で家族と自由に会話が出来るよう充電等のお手伝いしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の暖房はエアコン使用し温度設定している。玄関やホールに花や季節の飾りを置いている。暖かい季節にはプランエアーで花を育て玄関を飾っている。	1階の共有空間は、エアコンで適温調整され、職員とともに食事やテレビ鑑賞を楽しんでいる。大型テーブルで利用者が多く集まり談笑している。2階は、居室空間となっており、広い廊下スペースで車いすを配置している。エレベーターや階段の手すり設置など、利用者の動きに配慮している。非常口の階段には踊り場スペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関（屋外）のベンチ・ソファーが有り、自由の腰かけられる。2階にもソファーが有り静かにくつろげる空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な空間を心掛けている。テレビや小さな棚を持ち込み使いやすくしている。小さな仏壇が有る方には生花を飾ったりお彼岸やお盆には少し多めの供え物を準備している。	2階居室及び共有スペースの清掃は夜勤職員が行っている。床張りでベッドやチェスト、ナースコール設備が備え付けられ、開設当初からエアコンを設置している。仏壇・位牌・写真を持参配置し、絵・書道・カレンダーなど個々に飾り、各居室ともすっきりとした空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や車いすが通れるように整理整頓に努める。ADLや認知症の度合いに合わせて居室を設定している。		